

令和5年度 第4回 亀玉小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月16日（金） 13時30分から15時40分まで
- 2 開催場所 亀玉小学校 会議室
- 3 出席委員 太田 富次郎、渡邊 剛一、伊藤 順子、平野 和江、森田 智佳、鈴木 歩、竹内 陽介
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 出席なし
- 6 学校支援コーディネーター 町田 和代
- 7 学 校 西川 正師（校長）、村田 昌士（教頭）、阿部 泰幸（教務・CS担当）、江間 徹（いじめ対策コーディネーター）、村瀬 美恵子（CSディレクター）
- 8 傍 聴 者 一人
- 9 会議録作成者 村瀬 美恵子（CSディレクター）
- 10 議長選出
議長は、出席した委員の互選により選出し、会長が平野委員を指名した。
全員、異議なくこれを承認した。
- 11 協 議 事 項
 - （1）自己評価の分析の報告
 - （2）令和6年度グランドデザイン・教育課程の説明と改善案の検討
 - （3）令和6年度「亀玉小学校いじめ防止基本方針」の説明と改善案の検討
 - （4）令和5年度学校運営協議会の自己評価と令和6年度の改善案の検討
- 12 会 議 記 録
司会の平野委員から、委員全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。

◎挨拶

- 太田会長から、あらっこ学習発表会で、のびのびと活躍する子供たちの姿を見て、宮口・亀玉を思う気持ちが伝わり感動したこと、各学年の発表内容についての話があった。
＜1年生＞4月からの成長を発表 ＜2年生＞町探検の学習を劇と合唱で発表
＜3年生＞発見した亀玉の良さを発表 ＜4年生＞学びを歌で表現
＜5年生＞最高学年への決意 ＜6年生＞表現を工夫した迫力ある発表
日頃の先生方の並々ならぬ努力の成果が実を結んだ大成功の発表会を見ることができてありがたかった。
- 西川校長からは、子供たちは学びの充実、教員は授業改善に力を入れて取り組んでいること、自己評価を来年度のグランドデザインに活かしていくことについて話があった。
また、以下の内容について話があった。
 - ・6年生の修学旅行や4年生のサーラ音楽ホールでの発表を学習発表会で披露できたこと
 - ・学習発表会で見られた学年のよさを振り返りに活かすなど、大きな行事の際には、目標を設けて実践したり、振り返りの場を学校として設定して、次の行事、目標に活かすというサイクルを実践したりしていくこと

- ・ 6年生を送る会の際、1～5年生が感謝の気持ちを表すことができるようになることを期待していること
 - ・ 来年度の持久走記録会について、浜北球場が使えなくなるため、会場が変更される予定があること
 - ・ 避難訓練について放送機器等の課題があること
- 以上の挨拶があった。

◎第3回会議録の確認

議長の指示により、会長が第3回会議録の議事内容を読み上げた。委員全員で確認し、異議なく承認された。

(1) 自己評価の分析の報告（教務）

議長の指示により、教務から別紙資料「後期、生活ふり返りアンケート」・「後期7項目3者の実現度比較」に基づき、自己評価の分析について説明があった。

＜「後期、生活ふり返りアンケート」（児童・保護者）＞

- ・ 項目は、⑤1～5が学校に対する内容、⑦6～12が重点目標やめざす子供像に対する内容、⑥13～18が子供にとっての内容
- ・ 児童・保護者共に、高い肯定回答は先生の授業の工夫（分かるまで教えてくれる。褒めて助けてくれる。）、学習ボランティア・地域人材の活用（学校に地域・家の人々が来校して色々な事を教えてくれる。）
- ・ 児童の回答は、「学校に行くのが楽しい。」「学校の出来事を家の人に話す子」の項目が増加した。「将来の夢」「こうなりたい」の思いをもつ子が多い。しかし、「自分の発表に少し自信のない子がいる。」「家でのゲーム時間と体・健康への影響を考えて生活できない子がいる。」という項目については、肯定率が低い。
- ・ 保護者は、「基本的な学習のルールが身に付いている。」「自分の考えの発言と人の考えを聴き取り入れる。」「自分が決めた目標に向かって、粘り強くチャレンジしている。」「家庭学習に進んで取り組んでいる。」に対する肯定的な回答が低い。

＜「後期7項目3者の実現度比較」（教職員と保護者・児童）＞

- ・ 【やさしい子】「自分のよいところが分かる」「子どものよいところを褒める」は高く、子供同士が冷静に見合っているように思われる。優しい言葉遣いには課題がある。
- ・ 【かしこい子】「自分の考えを分かりやすく伝え、友達の考えを聴く」には肯定的な回答率が高い。「学習したことを生活の中で活かす」と「学習のルールが身に付いている」の項目に課題がある。
- ・ 【たくましい子】「自分の決めた目標に向けチャレンジする」と「体の健康や安全な生活を考える生活する」の項目に課題がある。

このことを委員全員で確認し、異議なく承認された。

(2) 令和6年度グランドデザイン・教育課程の説明と改善案の検討（校長）

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき令和6年度グランドデザインと教育課程について説明があった。委員からは、以下の発言があった。

＜令和6年度グランドデザイン・教育課程の説明＞（校長）

- ・ 子供たちのやりたい、やってみたいを形にした学校運営をする。予測困難で「VUCA」の時代（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性）を子供たちは生きてい

- く。
- ・ウエルビーイング (Well-Being) の考え方を重視し、共生社会の実現、社会的包摂を意識した教育を推進していく。また、はままつの教育・鹿玉中学校区の目指す子供像を踏まえ、保幼小中の連携を通して教育活動を実践していく。子供たちが通いたい、保護者が通わせたい、地域から信頼される学校づくりをしていきたい。
- ・学校教育目標がどのような姿を指すのかを、職員の話し合いを通して、明確にした。
- ・学校経営目標を「～なりたい自分・よりよい学校地域を思い描き主体的に考える力を育てる学びの深化～」とし、次のことに重点をおいて教育活動を進める。
 - 一人一人のよさを見付け、発揮させることができる学級・学年・学校づくり
 - 校内研修の充実（学習の質の向上）
 - 保護者・地域との連携・協働
 - 相談できる、高め合える職員集団
- ・第3回学校運営協議会で話し合っていたいただいた、本校を取り巻く環境（学校・地域の強みと課題）を踏まえて考えた。強み（成果）としては、行事やイベントに夢中になれる子供が多いこと、集団登校で学年の違う子供でも仲良くなれること、学習ボランティアの協力が得られやすいことがある。課題としては、自信の無い子供、チャレンジしてもあきらめてしまう子供がいることがある。今後、チャレンジする場を設定し、人を頼る傾向がある子供たちを、「自ら考える」ことができる子供たちにするために、主体性をみがく場を設定していく。

<改善案の検討>

- ・子供たち全体のレベルを上げるためにも、個々の特性に合わせた接し方と目配りをしてほしい。（渡邊委員）
 - ・その子なりのレベルで進め、上手になってレベルアップするような支援をしてほしい。個性のある子を上手に活かす場面を作してほしい。（伊藤委員）
 - ・児童・学校・保護者・地域で学校を良くしていくことを、引き続き推進していきたい。（鈴木委員）
 - ・個々に合わせたサポートと全体に話をする教師の対応を組み合わせ、子供が楽しい・出来て良かったと思うことができるような支援に期待する。（竹内委員）
 - ・先生方は一生懸命。ONとOFFを使い分け、入り込みすぎない気配りを期待する。（渡邊委員）
 - ・グランドデザインを、どう発信するとよいのかを考えていく。ステップアップしながら、行き過ぎず、来年度、目標の達成に努めたい。（校長）
- これらの意見を委員全員で検討し、異議なく承認された。

(3) 令和6年度「鹿玉小学校いじめ防止基本方針」の説明と改善案の検討

議長の指示により、いじめ対策コーディネーターから、別紙資料に基づき令和6年度「鹿玉小学校いじめ防止基本方針」について説明があった。委員からは、以下の発言があった。

<令和6年度「鹿玉小学校いじめ防止基本方針」の説明>

（いじめ対策コーディネーター）

- ・「校内いじめ対策委員会」において、いじめ防止対策推進法を基に、「鹿玉小学校いじめ防止基本方針」を毎年、見直し修正していく。「人権にかかわる問題か」「命の

- ・ 尊厳にかかわる問題か」「児童に心理的、物理的な影響が与えられる行為になっていないか」「心身の苦痛を感じているかどうか」という視点で客観的に確認する。
- ・ いじめは、「いじめを受けた子どもの立場に立つこと」「〇〇さんにいじめられている」で成立。
- ・ 「いじめが起きにくい・いじめを許さない学校づくり」に取り組む。
- ・ 毎月の「はあとチェック」の実施、各学期1回の「はままついじめアンケート」の実施、定期個人面談を行い、いじめの早期発見、早期対応、未然防止に努める。

<改善案の検討>

- ・ いじめは非常に難しい問題である。いじめる側の子の家庭内の人間関係、環境が変わらなければ無くならない。子供だけの解決は難しい。 (渡邊委員)
 - ・ いじめた側といじめられた側の家庭への学校の伝え方の難しさがある。 (森田委員)
 - ・ 「やってない」「やられた」をどう伝えていくのか、根気がいる。 (校長)
 - ・ 子供が、家庭で学校での出来事を話した時、親は先生に話すことを迷ってしまう。子供自身が決められるようにしたいが、学校は大変だと思う。(鈴木委員)
 - ・ 自分の子供のことにとも対応していただいた。親同士が知り合いだったので解決できた。保護者の人間関係は大事だと思う。(竹内委員)
 - ・ いじめの加害者、被害者の親に連絡をすると思わぬ発言が返ってくることがあり、担任はショックを受けることもある。親の心情が家庭の状況を慮りながら対応することが大切である。(いじめ対策コーディネーター)
 - ・ 子供が、自分から「やめて」と声を出せる勇気が必要。大変な対応を丁寧にしてきている学校に感謝している。(平野委員)
- 以上のことを委員全員で検討し、異議なく承認された

(4) 令和5年度学校運営協議会の自己評価と令和6年度の改善案の検討

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づいて令和5年度学校運営協議会の自己評価についてのアンケート結果の報告があった。その後、令和6年度の改善案について検討した。委員からは以下の発言があった。

<令和5年度学校運営協議会の自己評価>

- ・ 内容確認や疑問点を質問し議論し、学校運営についての理解を深めることが出来た。
- ・ 熟議を重ねるごとに、より学校支援活動の必要性和拡大の大切さを深く感じるようになった。学校の求める人材や教材について知り、子供たちに必要な支援について考える機会になった。
- ・ 会議録を本校のHPに掲載したり、運営委員会の様子を学校便りに載せたりしたことにより、家庭、地域の理解が深まり連携や協力をすることができた。学校運営協議会の認知度は上がっていると思う。保護者の理解と賛同、地域内への周知という点は、まだまだこれからである。
- ・ 来年度の目標として、学校運営協議会への積極的な参画及び学校、家庭、地域の信頼関係の更なる構築、関係機関との連携が必要である。また、必要な分野の地域人材の発掘と積極的活用も検討していく必要がある。
- ・ 情報発信や周知方法の工夫による地域の協力とボランティア数の増加を図っていく必要があると思う。

<改善案の検討>

- ・学校運営協議会が地域の方と話して学校運営を進めているということを多くの保護者に知ってほしい。 (鈴木委員)
 - ・CS (コミュニテイスクール) を知ってもらう事が必要だと思う。そのための手立てとして、具体的な方策を出していきたい。地域が学校と一体となり学校行事に関わってほしい。 (渡邊委員)
 - ・様々な物に掲載するのも一つの方法だと思う。学校行事、学校活動、PTA活動をさくら連絡網で発信することもできるかもしれない。 (竹内委員)
 - ・「学校に来て見てみたい」「地域で子供を育てていこう」の気持ちを高める為に、情報発信をしていきたい。 (太田会長)
- このことを委員全員で検討し、異議なく承認された。

13 報告

(1) 班旗の扱いについて (教頭)

児童の安全とリーダーの自覚等には必要だと意見が多くの子供たちから出た。一方で、両手がふさがったり、旗の大きさや破損等になったりしてしまうのであれば不必要という意見もある。これらの意見を踏まえ、班旗の使用は継続して。今後の様子を見守っていく。

(2) 夢育やらまいか事業について (教頭)

第1回で話し合っていたいただいたことをもとに、6年生で宮口の歴史講話のやICT環境の充実のため、支出をした。御支援いただいたことで、宮口への愛情が深まったり、様々な学年で表現力が高まったりした。

14 連絡事項

(1) 令和6年度学校運営協議会について (教頭)

来年度も委員の皆様には、継続をお願いしたい。PTA正副会長は任期修了の為に交替となる。

(2) その他

○PTAについて

- ・加入の有無についての課題が出ている。「入りたくない」「役員が負担である」等の意見が出ている。旗振り等が負担になっているとの意見もあるため、地域で見守っていただける人を考えていただけるとありがたい。 (鈴木委員)
- ・加入の有無にとらわれない利益の均等化を図りたい。 (校長)
- ・任意団体の加入の有無については、自治会でも課題となっている。自治会に入るかは任意だが、子供たちの事をどう考えるかは、地域で自治会も含めて熟議していきたい。 (渡邊委員)